

# 高千穂大学 教職課程だより

## ご挨拶

教職課程運営委員長 鈴木 隆弘(人間科学部)

高千穂大学教職課程で学ばれた卒業生教員の皆様、今年度卒業を迎える皆様、そして在校生の皆さん、ならびに多方面から本学の教員養成にご支援を賜っております関係者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より本学教職課程の運営に対し、多大なるご理解とご協力をいただいておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。

本年度より、教職課程運営委員長を拝命いたしました人間科学部の鈴木隆弘と申します。

この度、「高千穂大学 教職課程だより」第12号を無事にお届けする運びとなりました。本教職課程だよりは、2015年度に創刊され、本学で学んだ卒業生と在校生、そして教職員を含むすべての関係者が交流の輪を広げ、絆を深める場となることを目指しております。同時に、本学における教員養成を一段と充実させ、活性化させていくための重要な架け橋としての役割を担っております。

昨今、教員志望者の減少が社会的な課題として取り沙汰されています。

その背景にはコロナ禍の影響も少なからずありますが、主たる要因は「過酷な労働環境」にあると指摘されています。しかし、その実態は語られている通りといえるのでしょうか。

確かに教師の勤務時間は長く、子どもの成長を願うあまり際限なく時間を費やしてしまって、仕事に区切りをつけるのが難しいという側面は否定できません。また、解決困難な新たな社会課題が生じるたび学校の役割が拡大、教員の業務量が増大し続けていることも事実です。しかし、教育実習生の出勤・帰宅時間が早朝・深夜に及んでいた時代はもう過去のものとなりました。「働き方改革」が進展し、適正な勤務時間を確保するためか、運動会を土曜日の半日に短縮する学校が都内でも増加しています。現場の負担軽減は着実に成果を上げ、環境は確実に変化しています。

では、これからの時代における「学校」や「教師」の役割とは何でしょうか。かつては「子どものために」という合言葉のもと、自己犠牲を厭わずエンドレスに働く教師像が理想とされていたかもしれません。しかし、今求められているのは、限られた時間内で職務を全うできる専門性と、子どものための時間を生み出すためにこそ、自らの私生活を豊かに彩ることのできる人間性ではないでしょうか。もはや、ただ「働いて、働いて、働いて……」と仕事一辺倒ではなく、「よく働き、よく学び、よく遊ぶ」といった、人としての厚みを持った教師こそが、これからのモデルとなるはずです。

現在、中央教育審議会では、教職課程の必要単位数の見直しを含む大胆な改革案も議論されています。こうした「新しい学校と働き方の時代」に向け、私たち、そして高千穂大学教職課程ではどのような教師を育てるべきなのでしょう。このような変革の時代にあって、本学教職課程の役割を今一度問い直し、より優れた情熱ある学生、そして時代を切り拓く教員の育成に邁進して参る所存です。皆様には、引き続き本学教職課程への温かいご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

---

## 教育実習報告会（7月12日）

2025年7月12日(土)午後12時30分より、1102教室にて、「2025年度教育実習報告会」が行われました。

今年には16名の学生が教育実習に派遣されました(小学校2名、中学校1名、高校13名)。「教育実習体験報告」として、9名のプレゼンテーションが行われました。司会はMさん、Aさんが担当しました。開会の辞として、Fさんが後輩に向けて有意義な教育実習にするために本日の報告を参考にしてほしいと挨拶がありました。小学校全科についての報告はSさん、Nさん、高校において地理歴史科で実習を行ったSさん(地理)、Hさん(歴史総合および公民科)、公民科のTさん(政治・経済)、商業科のFさん、Aさん、Nさん、情報科のIさんが発表を行いました。また、各発表に対して、教職課程運営委員会の先生方が講評を述べてくださり、教育実習を経験した4年生や下級生、そして教職員一同にとって教育実習の内実を理解するうえで有意義な会となりました。閉会の辞では、Mさんが今後の本学教職課程の発展を願い、元気に一丁締めで会を締めました。

教育実習報告会では、プレゼンテーションを通して、実習中のスケジュール、実習校の紹介、1日の生活の流れ、研究授業の内容やそこに至るまでの指導の経過、後輩へのアドバイス等が紹介されました。また、昨年に引き続き、会場内には展示コーナーが設けられ、学習指導案や実習中に役立った書籍、文房具のほか、児童・生徒からもらった手紙や色紙などを後輩や教職員の皆さんが熱心にご覧になっていました。

これから教育実習を迎える学生の皆さんには、報告会で伝えられた情報をもとに、教材研究や実習準備を地道に進めていくことが期待されます。本報告会の随所に、先輩から後輩への心のこもったエールが込められていました。運営の準備して下さった実行委員の皆さん、どうもありがとうございました。

(早坂 めぐみ)

教育実習報告会実行委員長として

経営学部 4 年 F

私は今回、教育実習報告会実行委員の代表を担当しました。実習に行く前は正直行きたくないと思う気持ちのほうが強く私自身も不安な気持ちでいっぱいでした。今回の実習の経験から、今不安を抱える後輩たちの力になりたいと思いこの役割を引き受けました。司会者と連携して時間を調整したことや、実習で使った物の掲示準備、教務課との連絡を取り合うなど、代表として責任を持って取り組みました。

私は高校の商業科で 2 週間の実習を経験し、その体験をもとに発表を行いました。発表内容は実習校の詳細やスケジュール、担当科目、後輩へのアドバイスなど情報量が比較的に多くなってしまいましたが、これは後輩たちへの期待が大きかったからだと感じています。今回の報告会が後輩たちにとって、少しでも実習への不安を和らげ前向きな気持ちで臨むきっかけになれば嬉しいです。

---

教育実習報告会に参加して

人間科学部児童教育専攻 3 年 M

先輩方の教育実習報告を聴き、当初は教育実習に対して大きな不安を抱いていましたが、先輩方の「楽しかった」「改めて教員になりたいと思った」といった前向きな言葉を聞く中で、教育実習に対する不安が期待へと変わっていきました。また、実習に臨む際の心構えや注意点についても具体的に知ることができ、今の自分に何が求められているのか、どんな対策を行うことが必要なのかを改めて考える機会となりました。

今後は、文字の書き方などの些細なことにも気を抜かず、意識を向けながら、3 年次のこの時期から実習に向けて着実に準備を進めていきたいと考えています。

---

---

## 教職インターンシップ報告会（12月10日）

教職インターンシップは、教職課程を履修している学生が、小学校、中学校、高等学校のどれかの学校で就業体験をしてみるという科目です。2～3年生が対象です。実際に学校に行って、先生の仕事の手伝いをしながら、学校とはどんな場所なのか、先生はどんな仕事をしているのかということを経験してもらいます。

皆さんは教員免許状を取得するためには、2～4週間、教育現場で実習をおこなうことになっています。しかし、教育実習では、自分の担当する授業をして、ホームルームで担任の仕事を手伝うといった体験をするのが中心で、それだけで精一杯です。授業の準備だけで忙しくて余裕がないのが現実です。

教職インターンシップでは、生徒たちは、授業のほかにも実に様々なことをしているので、それらをいっしょに体験してもらおうというものです。

本年度は、高田馬場駅から徒歩8分のところにある保善高等学校へ2名、中野駅から徒歩15分のところにある堀越高等学校へ2名。計4名が参加しました。

そして、教職インターンシップの報告会が、今年の12月10日におこなわれて、それぞれがパワーポイントによってわかりやすく体験談を語ってくれました。ご苦労様でした。

（松丸 明弘）

### 学生の声

#### 私立保善高等学校での教職インターンシップ

私は、8月29日から9月29日の間、保善高等学校で教職インターンシップに参加しました。学校説明会や授業補助など、生徒側ではなく教員側として参加することは、とても新鮮で勉強になりました。また、教職インターンシップは先生の仕事を詳しく知ることができるので、先生という職業に対する理解が深まりました。また、行事の大切さ、生徒との関わり方など教育実習や教師になってからも大切であろうことをたくさん学ぶことができました。教職インターンシップで学んだことを今後の生活に活かし、成長していきたいと思えます。

（商学部2年 K）

---

私は、保善高校で教職インターンシップに参加しました。授業の見学や補佐や職員室での先生方の過ごし方はもちろんのこと、学校説明会やサマーセミナー、保健室や図書室といった普段は関わる機会が少ないようなところも経験をさせていただきました。さらには、今年は文化祭に、準備から開催、そして片付けまで参加させていただきました。その時には、私の生徒との関わり方や私自身が教員に適正があるかどうかという部分を知ることができました。こうした現場経験を

たくさん積むことによって、先生方のような余裕や貫禄を出すことができることもわかりました。

ある先生から、生徒全員に理解してもらうためにはその子にあった授業スタイルが必要であり、それをプリントや黒板、説明の仕方、雑談などで工夫し、集中力をどのように持続させていくかを計画立てておこなうことが大切であると教えていただきました。教職インターンシップで学んできたことを教育実習の際に活かしていきたいと思いました。

(商学部3年 K)

---

### 私立堀越高等学校での教職インターンシップ

私は、提携校である堀越高校での教職インターンシップに参加しました。この実習を通して得られた経験は、大学の講義だけでは得られない、貴重なものとなりました。今回の実習で最も印象に残っているのは、学校現場における「教員の多角的な役割」を肌で感じられたことです。授業補助だけでなく、学校説明会や文化祭といった行事の運営に携わる中で、生徒が主役となる舞台の裏側には、先生方による入念な準備と細やかな配慮があることを学びました。また、生徒一人ひとりの個性に合わせた声掛けや、興味を惹きつけるための教材研究の深さを目の当たりにし、教職という仕事の奥深さを実感することができました。さらに、実際に生徒と触れ合う中で「先生、ありがとうございます。」という言葉をもたらえたことは、私にとって大きな自信となりました。教育実習を目前に控えた今の時期に、現場の空気感を体験し、教員としての将来像を具体的に描けたことは、今後の学習意欲を高める大きな糧となりました。「まだ知識が足りないから」と迷っている後輩の皆さんもいるかもしれませんが、教職インターンシップは教員としての在り方を学ぶ「学びの場」です。現場でしか得られない感動や発見が必ずあります。ぜひ、積極的に挑戦してみてください。

(商学部3年 M)

---

私は、7月21日から10月26日の間で、堀越高校での教職インターンシップに参加しました。この教職インターンシップに参加したことで、様々な先生の授業の進め方や授業だけではなく、文化祭や他の行事を行う中での先生方の動きを見学することができました。授業では、同じ科目でも先生ごとに授業の進め方というものが全く異なっていて、自分の授業を確立することの重要性を知ることができました。行事では、私たちが生徒だった時には考えることがなかった文化祭の裏での先生の準備や周りの生徒の安全を確保しながら先生自身も一緒に楽しむことで生徒も一緒に楽しめる空気ができているのだなと感じました。教職インターンシップの期間中に様々なことを経験させていただいたことで、多くのことを学ぶことができ、普段の教職課程の授業で学校現場を意識して考えられるようになりました。私は今回の教職インターンシップで自分の将来の教員像を確立することができました。そして、これから普段の大学の講義から教育実習まで意識して準備していこうと思います。

(商学部3年 M)

## 教員採用試験合格報告会（2月14日）

2026年2月14日(土)、今年度の高千穂大学教員採用試験合格報告会及び卒業生教員の会が開催されました。

第1部では、教員採用試験合格報告会を実施し、崔常務委員の司会のもと、セントラル・スクエア2階タカチホホールにおいて盛大に開催されました。

はじめに、学長齋藤元紀先生よりご挨拶を賜りました。齋藤学長からは、本学において本報告会および卒業生教員の会が大変意義深い行事であること、そして学生がその意義を十分に認識し、積極的に参加することの重要性についてお話をいただきました。本報告会は、教員採用試験に合格した先輩方の体験談や具体的な助言を直接聞くことができる貴重な機会であり、本学学生にとって大変有意義な行事となっています。

教員採用試験合格の体験報告では、まず小学校に合格したNさん(人間科学部児童教育専攻4年、長谷川万希子ゼミ、東京都合格)より発表がありました。Nさんは採用試験合格までの経験を踏まえ、強い意欲を持ち努力を重ねれば道は開けること、また迷いや悩みを抱えた際には一人で抱え込まず周囲に頼ることの大切さについて語りました。

続いて、高等学校に合格したMさん(商学部商学科マーケティングコース4年、上原ゼミ、神奈川県合格)、Aさん(商学部商学科会計コース4年、成田博ゼミ、東京都合格)、Sさん(商学部商学科マーケティングコース4年、齋藤典晃ゼミ、神奈川県合格)より発表がありました。3名からは、教員採用試験に向けた長期間の準備の中でバーンアウト(燃え尽き症候群)に陥った経験や、不安や迷いを感じた際には周囲の支えを得ることの重要性などが述べられました。また、実際の学科試験、小論文試験、面接試験について、実施時期や具体的な内容、効果的な学習方法等に関する具体的かつ実践的な説明がなされました。参加した学生は終始熱心に耳を傾けており、大変有意義な報告会となりました。

次に、卒業生教員による講演及びトークセッションを実施しました。

まず、卒業生の静岡県立の高等学校の校長M先生(昭和63年卒業)による講演が行われました。講演では、教員という職業の特徴について言及があり、教員は専門職として教壇に立ち、児童・生徒に知識や技能を指導する職業であること、他者から細かく指示を受けて動く仕事ではなく、自ら考え判断して行動することが求められる職業であること、さらに業務は多岐にわたるものの数値的なノルマはなく、裁量の大きい自由な側面を有していることが示されました。また、これから教員を目指す学生に向けて、AKT(A:明るく挨拶、K:環境整備、T:時間を守る)を心掛けることの重要性が提言されました。日常の基本を徹底することが、教員としての信頼や実践力の基盤となるとの示唆がありました。

続いて、卒業生教員によるトークセッションが行われました。本学を卒業された静岡県高等学校のM先生(昭和63年卒業)、T先生(昭和60年卒業)、I先生(昭和61年卒業)、M先生(平成15年卒業)、H先生(平成2年卒業)、静岡市の小学校のK先生(平成23年卒業)、埼玉県の小学校のS先生(平成25年卒業)の7名の先生方をお招きし、教育や教員の仕事についてグループトークを行いました。ファシリテーターは、本学教職課程運営委員長の鈴木隆弘先

生が務めました。トークセッションでは、「教員の仕事とはどのようなものか」「教員を続けてこられた理由」などをテーマに、活発な意見交換が行われました。卒業生の先生方からは、教育現場での具体的な経験談を交えながら、教員の仕事の大変さや魅力、そしてやりがいについて、大変貴重なお話を伺うことができました。現在も教壇に立ち、多くの児童・生徒を前に授業を行っている先生方だけあって、落ち着いた語り口で、たいへん分かりやすいお話でした。小学校や高等学校の教育現場における難しさや忙しさが語られる一方で、生徒とともに充実した日々を送っている様子も伝わってきました。教職課程を履修している学生にとって、大きな刺激となる時間だったと思います。先輩方の実践報告からは、「楽しみながらも真剣に取り組んでいる」「日々努力を重ねている」という姿勢がひしひしと伝わり、大変意義深いトークセッションとなりました。

続いて、杉並区教育委員会渋谷正宏教育長よりご講評を賜りました。教職を目指す学生に向けて、学校現場を実際に見て体験することの重要性について、貴重なお話をいただきました。また、力強い叱咤激励のお言葉も頂戴し、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

そして、最後に教職課程運営委員長の鈴木隆弘先生より総評をいただきました。ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げますとともに、来年もまた多くの卒業生の皆様にご参加いただけますようお願い申し上げます。

(崔玉芬)

---

## 卒業生教員研究交流会 (2月14日)

第1部に続いて「第2部 卒業生教員と教職履修学生との情報交換会(卒業生教員研究交流会)」が開催されました。

まず、成田博理事長より、ご挨拶がありました。続いて、齋藤元紀学長が乾杯のご発声をされました。

その後、ご出席いただいた卒業生教員と教職履修生、大学教職員、そして卒業生教員同士の交流を図る情報交換会となりました。会合の途中には、ご出席いただいた卒業生教員の先生方から、各々の近況等についてもご報告いただきました。

会合中には、卒業生教員の皆様と今年度の教員採用試験合格者たち、あるいは教職履修生たちとの交流も活発に行われ、教員採用試験合格に向けた対策についてだけでなく、教育観や教師観にもつながるようなエピソードなどについてもお話を伺うことができましたようです。おそらく、教職履修生たちにとって教職についての知見が広がる大変有意義な会合となったことでしょう。

お忙しい中、ご来校いただいた卒業生教員の皆様には、改めて感謝申し上げます。来年度も、さらに多くの方々にご参加いただければ幸いです。

(松丸啓子)

---

---

## 教員採用選考 合格体験記

今年度、教員採用選考に合格した4名の方々に、対策の仕方や実際の選考を経験してのアドバイスについて寄稿していただきました。後輩の皆さんは、先輩方のアドバイスを受けて、来年度の教員採用選考に備えてください。

### 私が目指す教師像

人間科学部 4年 N

私の学年で小学校全科の教職課程を履修していた人数は多くなかった。人数が少ない分、発表の機会は多く、ほぼ毎日のように指導案を作成し、翌日に発表する日々だった。正直、しんどかった。ゼミ発表会の準備も重なり、体も心も追いつかなくなった時期がある。無遅刻無欠席だった私は起きられなくなり、課題も思うように出せなくなった。東京教師養成塾の学内選考に落ちたことも重なり、教員に向いていないのではないかと自信を失った。

そんなとき、先輩に相談すると「それでいい。今まで頑張りすぎているのではないか」と言ってもらった。その言葉をきっかけに、完璧であろうとするのではなく、続けることを大切にしようと思えるようになった。あえて息抜きをし、周囲を頼りながら取り組み方を変えたことで、弱さを認めることも成長の一部だと気づいた。

その経験は、在学中に関わってきた子どもたちの姿とも重なった。不登校や障がい、貧困など様々な背景を抱える子どもたちと出会い、声を上げにくいことで孤立していく現実を知った。自分が孤立しかけたからこそ、子どもが自分の「したい」を安心して表明できる環境が必要だと強く感じている。卒業後は、子どもの小さな声に耳を傾け、誰もが意見を伝えられる居場所をつくれる教師でありたい。

---

### これまでと、これから

商学部商学科 4年 M

教職課程での学びを振り返ると、悩みや迷いを感じながらも、自分なりに教師を目指して取り組んできました。教職を志した当初は「お世話になった先生方のようにになりたい」という憧れが強く、授業作りや教師の仕事について具体的なイメージを持っていたわけではありませんでした。しかし学びを進める中で、教師という仕事は専門知識だけでなく、生徒の理解や思考に寄り添いながら授業を構成していく力が求められている仕事であることを実感するようになりました。

特に大きな転機となったのは教育実習でした。私は授業作りに強い不安があり、何度授業中に模擬授業を重ねても「初めて学ぶ実際の生徒に伝わるのだろうか」「どのように活動を取り入れればいいのか」と悩み続けていました。指導案を作っては修正し、練習を重ねました。それでも、指導教員の先生からの助言や同期の支えによって試行錯誤を重ねていく中で「授業は完成させるのではなく、日々改善していくものなのだ」と考えられるようになりました。この経験は教師としての姿勢を大きく変えるものでした。

教員採用試験の準備においても、教育実習での学びが大きな支えとなりました。授業や教育観について自分の言葉で語れるようになったことは、自分の大きな強みとなりました。また、不安や焦りを感じる場面も多くありましたが、同じ目標を持つ仲間と励まし合えたこと、支えてくれた家

族や先生方、大学職員の方々に心から感謝しています。

教職を目指す過程で、思うようにいかず悩むことも多かったですが、その経験の一つ一つが教師としての力につながると思います。これまでの経験と学びを忘れず、これからは生徒と共に学び、成長し続けたいと思います。

---

## 夢をかなえるための3年間

商学部商学科 4年 A

教職課程を履修していた3年間は大変なことも多くありましたが、それ以上に楽しく充実した時間だったなと思います。高校の時に教員という道を目指し、この大学に入学しました。2年生から教職課程が始まり、教育に関する専門的な学びが本格的に行われ、あまりの知識量に本当に自分に教員は務まるのだろうかと不安を抱えてのスタートでした。3年生になり、授業がより専門的なものが多くまたもや本当に大丈夫なのか…と不安になりましたがもう後戻りはできないとがむしゃらに学びつくしました。教職課程はひたすらに学ぶ姿勢と根性が重要だと感じました。

3年後期から4年前期に教育実習への準備が始まりました。母校での教育実習はとても楽しみでしたが、その楽しみを壊されるくらいに忙しく、メンタルがきつかったことを覚えています。授業準備はもちろん1番大変でしたが授業観察・生徒指導などその他の業務も本当に気が狂いそうでした。ですが、生徒の笑顔、成長を授業や休み時間などで実感するたびに教員という夢を必ず叶えたいと強く思いました。

教育実習が終わってからはその気持ちを忘れないうちに勉強に励む…はずでしたが教育実習が終わった安心から気が緩みっぱなしでした。気づけばあと2週間、そこからは過去問集や問題集を最低でも1日2回は解くことを意識しました。無事1次が終わり、2次の面接ではこれまでの経験と強い思いを自分の言葉と姿勢で精一杯伝えました。

この3年間で教育に関する知識を多く身に付けることができたと思います。ですが知識だけでなく困難なことに対し、逃げずに向き合う姿勢や努力は必ず身になるということも学びました。大変なことや不安なことの連続でしたがその経験があったからこそ、今の自分があると感じています。教職課程の先生方や関係者の方、共に学んできた仲間たち、支えてくれた家族、友人には心から感謝しています。これから教員として歩いていく中でもこの経験を忘れず、生徒とともに成長し続けたいと思います。

試験当日は、余裕を持って試験会場に到着することをお勧めします。第一次試験には、当日の朝6時半ごろには、会場付近に到着して試験の対策をしていました。また、二次試験の1時間前には近くのファミリーレストランで面接対策をしていました。

上記のことから、教員採用試験合格に向けて事前に準備をし、教員採用試験対策を先生方をお願いすることが大切であると考えます。

最後になりますが、教員採用試験合格にあたり教職員の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

---

## 夢が叶った大学生活についての感謝

商学部商学科 4年 S

私の大学生活を振り返ると、かなり多くの時間を教職に割いたと感じます。中学生時代から社

会科教師に憧れた私は、社会科の教員免許を取るために高千穂大学に入学しました。しかし、正直勉強が得意ではないため採用試験合格は夢の話だと思っていました。ですが今年度の採用試験に現役合格し、こうして教職だよりに寄稿できることは未だに信じがたいことです。

一番印象に残っている出来事は、3年次に教職履修停止となったことです。そのような制度があることすら停止になって初めて知ったのですが、高千穂大学には単位数等の一定の基準に達しない場合は教職活動が続けられなくなります。様々な事情はありましたが、入学当初から教員免許を目標としてきたので目的を失い、心が荒んでいたのを覚えています。ですが粘り強く取り組んだおかげで教職課程に復帰し、来年度から教壇に立てるまでになりました。今振り返ると感無量です。これほどのどん底から這い上がったのは教務課の進藤さん、福司さんなど職員の皆さんと、教職課程の先生方のサポートのおかげだと思っています。1人では絶対に復帰、合格までたどり着けませんでしたが、感謝しきれないほどお世話になりました。

確かに教職課程を履修することは楽ではありませんでしたが、履修していない学生を羨んだことは何度もあります。正直、教職を取らなければできたことも多くあったと思います。ですが高千穂大学に入学し、教職課程を履修し、忙しい日々を過ごしたことについては一切後悔していません。ここで学んだことをしっかり活かし、指針にもある通り半歩先立ってこれからも精進していきます。そしてもし、今後教師を目指す生徒に出会ったらこの大学を勧めようと思います。私にとっては夢を叶えてくれた大学なので。

長くなりましたが、本当にお世話になりました。関係者の皆様、本当にありがとうございました。

---

## 退職のご挨拶

早坂めぐみ

2021年に本学に着任して以来、教職課程に関わる多くの先生方、職員の皆様に大変お世話になりました。教職課程という、学生一人ひとりの将来に深く関わる場で、教育と運営の両面に携わらせていただいた5年間は、私にとって非常に密度の濃い時間でした。日々の業務のなかで支えてくださった皆様に、心より御礼申し上げます。

この5年間の振り返って、最も強く心に残っているのは、毎年4年生とともに作り上げてきた教育実習報告会です。教育実習を終えた直後の学生たちは、達成感だけでなく、戸惑いや迷い、悔しさを抱えて会場に集まってきます。その一つひとつの経験を言葉にし、仲間や後輩と共有しながら、自分なりの問いとして受け止め直していく過程は、教職課程での学びの核となるものだと感じました。報告会を通して、学生が「教える立場」としてだけでなく、「学び続ける専門職」としての第一歩を踏み出していく姿を見守れたことは、教員として何よりの喜びでした。

また、教職履修開始時の面接や、教員採用試験に向けた模擬授業・面接対策を通して、多くの学生と向き合えたことも大切な思い出です。将来への不安や迷いを言葉にししながら、それでも教職を志そうとする学生の姿に、私自身が何度も励まされました。進路の正解を示すことはできませんでしたが、一人ひとりが自分の選択を自分の言葉で引き受けようとする、その姿勢に立ち会えたことは、教職課程に携わる者として忘れがたい経験です。

着任2年目には、教職課程自己点検評価書の作成に携わり、教職課程という組織の歩みを学ぶ貴重な機会を得ました。また、教員採用選考の二次試験対策として、酷暑の中、大学に集まって対策を行ったことも印象に残っています。学生の努力が結果として実を結び、その知らせを共有できた瞬間は、教職課程が積み重ねてきた営みの確かさを改めて感じさせるものでした。

これから教職に就く皆さん、そして現在、教員として現場で勤務されている卒業生の皆さんには、どうか自分自身の調子にも目を向けながら歩んでほしいと思います。教職はやりがいのある仕事である一方で、心身に負担がかかる場面も少なくありません。ときには立ち止まり、周囲と相談しながら進むことも含めて、自分を大切に作る姿勢を忘れないでください。本学で学んだ経験が、皆さんが長く現場に立ち続けるための支えとなることを願っています。

本学の教職課程が、これからもアットホームで温かな場として、学生一人ひとりの声に丁寧に向き合い続けていくことを心から願っています。そして、本学を巣立った卒業生の皆さんが、それぞれの場所で自分らしい歩幅を大切にしながら、穏やかな人生を築いていかれることを祈っています。

これまで本当にありがとうございました。

<本学教職課程の概要について>

(1) 取得可能な免許種

高千穂大学教職課程では、以下の免許を取得することができます。

免許状はすべて一種教育職員免許状です。

学部	専攻	取得可能な免許種
商学部		高等学校(商業)／高等学校(公民)／高等学校(地理歴史)／ 中学校(社会)
経営学部		高等学校(商業)／高等学校(情報)
人間科学部	人間科学	
	児童教育	小学校(全科)

※ 商学部では、高等学校(情報)／ 経営学部では、高等学校(公民)(地理歴史)・中学校(社会)免許状取得も可能。

(2) 年間行事予定

教職課程では、教職課程運営委員会の下、主に以下の行事を実施しています。(予定)

月	行事	内容
4 月	履修ガイダンス	春学期履修に向け、学年ごとに実施します。
5 月	新規履修希望者ガイダンス	秋学期より新規履修を希望している学生を対象にガイダンスを実施します。
7 月	教育実習報告会	教育実習を終えた学生が、教育実習の体験を報告します。
	教職課程新規履修者面接	教職課程新規履修者希望者(秋学期履修開始)を対象に、面接を行い、履修の可否を決定します。
9 月	履修ガイダンス	秋学期履修開始者を対象に実施します。
11 月	新規履修希望者ガイダンス	翌年度より新規履修を希望している学生を対象にガイダンスを実施します。
12 月	教職インターンシップ報告会	教職インターンシップに参加した学生が、教職インターンシップの体験を報告します。
2 月	教員採用試験対策講座	教員採用を目指す2・3年生の希望者を対象に、採用試験対策講座を行っています。
	教職課程新規履修者面接	教職課程新規履修者希望者(翌年度履修開始)を対象に、面接を行い、履修の可否を決定します。
	教員採用試験合格報告会 卒業生教員の会	教員採用試験合格者及びお招きしたOB・OG教員より、合格までの道のりや教員生活の心構えなどをお話頂きます。

※教職課程履修者は「ガイダンス」「教育実習報告会」「教員採用試験合格報告会」参加が義務付けられます。

卒業生及び卒業された皆様へ

- 勤務先の変更・ご自宅の住所変更時
- 「学力に関する証明書」「単位取得証明書」等、証明書が必要な時
- 教職課程及び就職支援課に対する、私立学校等からの求人を知りたい時 等

以上の際には、学務部教務課までお問い合わせください。

[TEL:03-3313-0146](tel:03-3313-0146) MAIL:kyoshoku@takachiho.ac.jp

<目次>

- ご挨拶…………… p.1
- 行事紹介…………… pp.2-7
- 合格体験記…………… pp.8-10
- 本年度教員採用者  
について…………… p.10
- 退職のご挨拶…………… p.11
- 事務連絡・編集後  
記・奥付…………… pp.12-13

編集後記

今号も教職課程運営委員の先生方や履修学生のお力添えにより、充実した誌面となりました。多大なるご協力を賜り、ありがとうございます。

卒業される皆様のご健康とさらなるご活躍を祈念いたします。(崔玉芬)

「高千穂大学教職課程だより」第12号  
2026年3月20日発行